

(様式1)

平成29年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 021	提案機関名 普及指導部作物加工課
<b>要望問題名</b> 土壌診断における水稻のリン酸及び可給態窒素の分析について	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模 (面積、数量等) 】 土壌のリン酸含有量の分析に、土壌分析センターで行っているトルオーグ法は、カルシウムと結合しているリン酸のみを分析しており、鉄、アルミニウムと結合しているリン酸が測定されていない。ブレイ法を用いれば分析できるが、手間がかかることから一部を除き全国的にもトルオーグ法が利用されている。 しかし、本県の水田では鉄分が比較的多く含まれているため、トルオーグ法の分析値以上に可給態リン酸が多いと考えられる。 このため、適正なリン酸資材の施用により農家経営の負担軽減、化学肥料の低減を図るため、トルオーグ法を用いても、還元状態で溶出する可給態リン酸の値を導き出す手法を開発していただきたい。 また、水稻の窒素の土壌診断には、アンモニア態窒素や有機態窒素の分析値が必要であるが、土壌分析センターで実施されている分析値は硝酸態窒素であるため診断値を利用できない。 エコファーマーや特別栽培に取り組む水稻生産者が増加しており、水田への有機物施用を考えた施肥指導の必要性が高まっていることから、水田での有機態窒素を簡易的に評価できる手法を検討していただきたい。 対象地域 県下全域 水稻栽培面積 3,130ha リン酸診断結果適正值以下の割合 63.5% (平成27年度県下水田土壌診断結果より 全農かながわ調べ)	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	農業技術センター	<b>担当部所</b>	生産環境部土壌環境研究課
<b>対応区分</b>	①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b> (①、②、④の場合)	環境に優しい環境保全型施肥技術の開発 簡易土壌診断・施肥技術の開発 簡易土壌診断技術の開発		
<b>対応の内容等</b>	土壌中のリン酸含量については、水田、畑を問わずトルオーグ法によるリン酸含量で土壌診断を実施しており、データの蓄積もあることから、基本的な分析方法として問題はないと思われま。一方、近年の気象状況の変化や品質重視の生産等に対応して、低コストでより精密な施肥法等について検討する必要があると考えられます。他県事例の情報収集を行うとともに、本県水田土壌の可給態リン酸評価について、ブレイ法での分析の可否を含めて、上記課題の中で取り組みます。また、現在、畑土壌の可給態窒素評価について、上記課題で検討中ですので、今後、水田土壌についても合わせて検討していきます。 なお、水田の圃場試験は所内では実施できないため、現地実証については協力をお願いします。		
<b>解決予定年限</b>	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
<b>備考</b>			